

第 110 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2006 年 2 月 10 日(金) 18 時 00 分~19 時 00 分

場 所: 創立 30 年記念棟大会議室「常念岳」

演 者: 正司喜信 氏

(正司歯科/口腔顔面痛センター院長・米国疼痛学会認定医, 本学 6 期生)

7 回生と表記しましたが 6 期生の誤りです。

タイトル: 顎関節症の鑑別診断: 臨床の現場より

歯科医師は、長年にわたり口腔内の健康維持に関与してきた。しかし、今後将来の歯科医療は単に歯や歯周組織にとどまらず、口腔・顎・顔面に生じる疾患の診断と治療・予防について責任を持つものである。それらの疾患には顎関節症(TMD)も含まれるが、口腔顔面領域に疼痛を発生させる病態には TMD 以外にも実に様々なものがある。歯科の日常臨床における疼痛の訴えは、その多くが歯や口腔粘膜あるいは顎関節や咀嚼筋由来のものであるが、別の器官も疼痛の発生源となり得る。したがって、どの器官から疼痛が生じているのかを見極めること、つまり鑑別診断が重要となる。

Bell によれば、口腔顔面領域の疼痛でもっとも一般的なのが歯や歯周組織を主因とする歯原性疼痛である。そして、次に多いのが顎関節や咀嚼筋などに由来する筋骨格性疼痛、いわゆる TMD である。また、TMD 以外にも同領域に疼痛を引き起こす疾患として神経因性(ニューロパシー性)、心因性疼痛などが考えられ、それらは便宜的に非 TMD として分類される。したがって、患者が口腔顔面領域の疼痛を主訴に来院し鑑別に苦慮する場合は、もっとも一般的な 歯原性疼痛から順に、 TMD、 非 TMD と診査を進めていくことが推奨される。

TMD をどのように鑑別すべきか、日常臨床に即して具体的に解説する予定である。

略歴

1983 年	松本歯科大学卒業
1994 年	ニュージャーシー-医科歯科大学 TMD/顔面痛センター、臨床助手 レジデントプログラム修了
1995 年	東京都開業

顎口腔機能制御学講座 森本俊文